

発行日：2025年4月1日

ご挨拶

社会福祉法人もえぎの会 監事

中田 晴男

私かもえぎの会との関わり合いを持ったのは25年程前、故須田紀義さんとの出会いからでした。当時もえぎの会は任意団体の作業所で須田さんが代表を務められており、拠点は現在とは別の場所でした。しいの実生活実習所を訪問すると、あちこち動き回っている元気の良い利用者さんやスタッフ支援員さん、学生アルバイトさん達の笑顔と優しい目が迎えてくれました。多種多様、本当にいろいろな特性を持った人たちが居るんだなあ、と改めて心に刻まれた印象があります。当時私は30年程勤務していた会社を早期退職して、地域での活動とか社会参画とか何かできる事はないだろうかと模索し始めていたところで、いろいろなご縁もあり須田さんのご指導の下に目黒区の担当部署の強力なサポートを得ながら目黒障害者就労支援センターの立ち上げに参画しておりました。丁度その頃もえぎの会は社会福祉法人としての認可を受け、事業所施設の建設や新運営体制の整備等々、初代須田理事長は大変な時期であったと思います。その後私自身は家裁の調停委員その他の役職の為に障害者支援の運営現場からは少し離れておりましたが、10年程前から当法人の監事を仰せつかっております。



振り返れば40余年前、ダウン症の次男を授かって初めて知った障害者の世界。親としての葛藤そしてその受容、子自身の成長と発達、彼らの社会との関わりとその存在意味の認識等など、彼の存在がどれだけのことを私達夫婦や兄姉に与えてくれたことか、誤解を恐れずに言えば今となってはそのご縁に感謝の言葉しかありません。知的障害者教育の先駆者である糸賀一雄の言葉に「この子らを世の光に」があります。彼らの真実な生き方が世の光となるのであり、それを助ける私たち自身や世の中の人々が、かえって人間の生命の真実に目覚め救われていくと言う思いをこめた言葉だと思います。少子化と言われる中で特別支援学級、学校の在籍者数が増加していると聞きます。一方、もえぎの会の利用者さんの平均年齢は高齢化が進んでいます。これらの多重的課題に挑戦していかなければならない状況にある中、この基本的視点と考え方に沿って事業運営の拡充をしていく為に少しでもお役に立てる事があればと思っております。

2025年度 もえぎの会 事業報告会のご案内

恒例の事業報告会を、下記のように開催します。

6月21日(土) 目黒区総合庁舎 2階大会議室

ご案内は後日、お送りいたしますが、例年の7月でなく1か月早い6月開催となりますので、ご留意ください。

代官山 花壇のビュフェ、ハッピージャパンプロジェクトのコンサートなどを企画しております。ぜひ、お誘いあわせの上、ご出席していただきますようお願い申し上げます。皆さまとの懇親、交流を利用者・家族・職員一同心より楽しみにしております。



2024年度事業報告会

もえぎの会 2025年度事業計画

もえぎの会は、理念にある「地域での活動・就労・生活等の総合的な支援を目指す。」ということで、その中核となる日中活動の場と生活の場を運営し、質量とも向上を目指してきた。

今後、さらに世の中の変化、地域の要請に基づいて、新たに利用者を受け入れるとともに、サービスの品質向上と運営基盤の強化となる規模の拡大を目指す。一方、2025年度目標を「大転換への準備」として、世の中の変化とともに、利用者・家族、職員・役員の高齢化に伴い、事業を継続するために、多様な課題にひとつひとつ取り組み成果を上げる。

1. 法人本部機能の強化

事業運営の効率を向上させるために、ネットワークインフラの改善、リモートワークの環境整備、業務の改善を進める。職員数の増加や、沙羅の家を中心とした勤務管理の複雑化にともない、勤怠管理ソフト等について、費用対効果を踏まえて導入を検討する。

事務局業務について、デジタル化に向けて、業務の洗い出しをする。デジタル化により、職員の働きやすい環境を整備する。そのために、行政による助成事業、民間の基金を最大限利用して、効率的に成果を上げる。結果として、業務の標準化をひとつひとつ着実に進める。

2. 「終の棲家」のさらなる追求

健康管理、医療的ケア、バリアフリー対策、家族関係の整理を順次進める。

家族から通院同行などを依頼されることが増え、今後更に増加した場合、グループホームの本来の業務でなく、対応が困難になる。家族との密な連携により、訪問系サービス（訪問診療・訪問看護・訪問歯科など）を活用して、効率的に入居者の健康管理を行う。

経管栄養・喀痰吸引などの準備を進め、全職員が喀痰吸引3号研修を受講し、すべてのユニットで医療的ケアが提供できる体制を整える。順次、施設のバリアフリー改修を行い、身体機能の低下に対応した環境を準備する。家族のキーパーソンが十分に機能しない場合の対応策や相続問題を事前に整理し、サポートできる内容を明確にする。これらの取り組みにより、入居者の生活の質向上と家族やスタッフの負担軽減が図り、より安心して安全なグループホームとする。

3. しいの実社の拡大を目指して改善

店舗の老朽化対策として、また、継続する利用希望者対策として、新たに活動場所の確保を目指す。

活動場所候補地を探し、取得に向け交渉・補助金活用など具体的な計画作りを進める。

補助金申請や場所の規模・立地条件を勘案し、活動内容、人数を設定し、活動グループ、スタッフ配置をプロジェクトチームで進める。

虐待防止研修

沙羅の家 支援課長 君島宏幸

今年の虐待防止権利擁護研修は昨年に引き続き小原俊二先生の講義でした。今年のテーマは「障害者の人権条約、関連法と合理的配慮の理解」であり国際的な視点から我々が置かれている立ち位置を今一度確認してみようとの趣旨でした。戦後、世界人権宣言から始まり数々の人権擁護の取り組みが世界規模で行われてきた。もっとも人権を取り巻く環境は日々動いており今年に入ってから新大陸から厳しい風も吹き始めているようで今後何かと心配になるところですが・・・さて講義を受講し改めて思い知らされたのは基本をしっかりと習得することがなによりも大切であり、合理的配慮を理解するには前提として「区別」と「差別」をしっかりと理解すること。つまり平等とは？である。私たちは具体的な状況下で適切・公正に合理的と評価出来る客観的な判断基準を持ち合わせているのであろうか？その基準は万人に説得性を持つか？なんとなくの直感か？日々の業務の中で現実に実行出来ているか？私たちの日々の支援は正当か？・・・まだまだ学習しなければと反省しました。

第23回 しいの実祭 開催

支援スタッフ 織笠光由

11月30日(土)にしいの実祭を開催しました。区内福祉施設による販売や焼きそば、清水町会のフランクフルト、天ぷらの川さき、バルーンアートの碑文谷風船団、後援会によるバザーと豚汁、綿あめ作りのご協力など外での販売は多くのお客様で賑わいを見せていました。

今回、混雑を軽減するためパン販売ショップにお客様を誘導するス



天気にも恵まれ大盛況



更に改善した体験コーナー

タッフを配置したり、模擬店用の案内矢印で、並ぶ場所と通路を分かりやすく表示したりして、人の流れがスムーズになりました。

館内では、でかばっくによるエプロンシアターも開催しておりお子様連れのかたがとても喜んでいらっしゃいました。昨年から始めたクラフトの手作りしおり体験は規模を拡大して実施し、多くのお客様が笑顔で体験されていました。カフェのメニューも豊富に取り揃え、多くのお客様がくつろぎのひと時を過ごされていました。恒例のじゃんけんスタンプラリーでは各階で利用者とじゃんけんをする企画で、お客様とコミュニケーションを深めていました。大人から子供まで誰でも楽しめ、喜ぶ顔が見られました。

社員もお客様と触れ合う機会をもち嬉しそうに接していました。地域の皆様の温かい支えがあるからこそ安心して生活ができる、そう実感しました。

毎年お越し頂いている青木区長や保坂健康福祉部長をはじめ、行政、都議、区議の皆様にも足を運んで頂きました。準備や物品や場所の提供などご協力頂いた皆様・ご来場頂いた皆様に心より感謝申し上げます。

スマイルプラザ近況

業務課長 岡田朋也

現在スマイルプラザでは多くの社員が交代で学芸大学店の店舗での実習を行いながら毎日の働いています。人数が増え、作業の場所などが分かりにくくなってしまふことがあり、一昨年から環境整備に取り組んでいます。

その一つとして力を入れているのは、社員の一日の仕事の見える化。それぞれの仕事を大きなホワイトボードに張り付けることで、自分たちが今日何の仕事をするのかを更に分かりやすくすることで、見通しをもって仕事に臨むことができるようになります。また支援するスタッフも次の仕事分かることで、統一した流れの声掛けなどができるようになりました。



仲間との楽しいランチ

もう一つ、作業導線の改善に取り組んでいます。人数が増えたことで、トラブルにつながってしまうこともありましたが、整理してスムーズな流れを作ることでより落ち着いた環境での作業ができるようになってきています。

学芸大学店は、社員が店頭立つことで、地域との大切な接点となっているほか、自分たちの作ったパンをお客様が手に取ってくださるという貴重な体験にもなっています。社員が地域の中で生き生きと働き、暮らしていける場所作りを目指して実践を積み重ね、さらに改善していきます。



青木区長、目黒区役所の皆さま



お子様で一杯エプロンシアター



作業導線の改善

株式会社 平沢製館所

目黒区上目黒3-42-25
Tel : 045-472-0350(横浜工場)
<https://hirasawaseian.co.jp>

横浜市港北区の平沢製館所にお邪魔しました。平沢樹社長は、上目黒で70年程前に創業されたお祖父様から数えて4代目です。本社のある上目黒は社長にとってなじみの地で、近くにある福祉施設のお祭りにも小さいころ遊びに行った思い出もあるそうです。

製品である館を定番を始め季節のあんパン類の全てに使用させて頂き、しいの実社のパンを支えて下さる欠かせない材料です。

マニュアルだけでは成り立たない職人の経験や技術に加えて、仕込む前の原材料と仕込んだ後の質量の確認や金属探知機を使用した検査、製品の産地から出荷までを一貫して管理するトレーサビリティ、賞味期限の管理や科学的な根拠に基づいた製品づくりが行われています。館はパンに限らず、地域で愛される銘菓やスーパーで販売されているデザートに多く使用されています。コロナ禍で巣ごもり需要が賑わっている時に誰もが知っているお店で販売され、話題になった館バターも平沢製館所の製品です。

事業を長く発展しつづけていくためにHACCPに基づいた衛生管理や記録などのルールの遵守だけでなく、館の可能性を、メイン材料だけでなく、アップルパイの中身など洋風な材料や、材料同士がなじむためのつなぎにもなり得る多様な商品価値の可能性や小豆がもつ体に良い面のPRなどにも力を入れていきたいそうです。お子様がまだ小さいので最近は行けていないけれど、アウトドアでのキャンプが好きという樹社長。ぜひご家族との時間を大切に、リフレッシュもしながら広い視野を持った若きリーダーとして、これからも活躍し続けてください！



平沢 樹社長

家庭電化株式会社

目黒区中目黒3-5-7
TEL 03-3712-1400

家庭電化株式会社の伊藤幸男社長にお話を伺いました。社長とお二人の息子さんは、中目黒の店舗ではなく日々電気関係で困っていらっしゃるお客様の元へ東は千葉、西は八王子、南は伊東の川奈、北は牛久大仏まで駆けつけておられます。「父である初代伊藤芳郎のお客様は戦争でまだ持ち家でない方が多く、そのお客様が第一次、第二次住宅宅地開発によって中目黒から遠く離れて行かれましたが、ありがたいことに仕事は続けさせて頂いており、かなり広範囲になります。いまは高速道路があるから比較的簡単に動けます。」とのこと。

仕事の依頼は電気だけの範囲にとどまらず、いろいろなリクエストがあるそうです。特に緊急対応(漏電・集合住宅での上階からの漏水・火災時の放水後の漏電検査などいろいろ)が多く、それに応える柱は専門的技術です。

常に困っている人のために動いている伊藤社長、お父様の代から町会役員も引き受けられています。「仕事柄急な呼び出しも多く、活動できない場合も多々あります」と伊藤社長。

もえぎの会とは、パン職人としてしいの実社に長く勤めて下さっている職員の紹介をきっかけに20年以上のお付き合いをして頂いています。家電が壊れた時、電気のことでは分からないことがあったとき、まず相談させて頂くのが伊藤社長です。温かな人柄と専門的な知識に基づいた助言を頂ける頼りになる存在です。「お呼びがかかるうちが華」と、謙虚な社長。どうぞお身体には気をつけて、これからも多くの人にとって頼りになる存在でいて頂きたいものです。



伊藤幸男社長



昨年のもえぎの会事業報告会は久々に目黒区総合庁舎大会議室にて再開することができました。その中で、参加された皆様のお楽しみの一つ、ビュッフェランチのケータリングを担当して下さいました中国料理「花壇」をあらためて訪問させていただきました。

創立87年のUrban Resort Group傘下の「花壇」も55周年を迎えられました。今回お話を伺った5代目店長の中間一公さんは20年以上をお店とともに歩んでいらっしゃいます。

「地元の皆様に支えられ、今日まで続けられたことを心から感謝しています」とおっしゃる中間店長は、昨年のケータリング時の印象を「支援者の方々が障害のある方々と一緒に楽しむために準備を重ね、笑顔でいることを心から喜んでいる様子うかがえました。パーティの最後に、「花壇さんのおかげでみんなが本当に幸せな時間を過ごせました。ありがとう」と、声をかけてくださいました。でも実は私たちこそ、地域の支援の皆様が足元で支えていることを近くで感じて深く心を打たれました」とお話しくださいました。

コロナ禍のことをお聞きすると「お店の存続も危ぶまれましたが、多くの励ましや支援をいただき『コロナと闘う医療従事者にお弁当をお届けする』プロジェクトに参画し、独自にクラウドファンディングも立ち上げ、地域の店舗のご協力も含め、累計9,000個のお弁当を医療機関に届けることができました。医療従事者の方々から頂いた「ありがとう」のお手紙や笑顔で逆に私たちも勇気をもらい支え合うことの大切さを実感しました。これらの経験は私たちの店づくりにも大きな影響を与えました。地域のすべての人にとって居心地の良い店を作る、という思いを少しずつ実践していきたいと強く思いました」と、社会貢献の熱いお話が伺えました。

幼いころはブルートレインの運転手にあこがれたとおっしゃる中間店長、休日は電車に乗り近郊の町散策がリフレッシュの一つだそうです。これからも「花壇エクスプレス」で多くのお客様を楽しませてください。



中間 一公店長
花壇のエントランス前にて

新規後援会員をご紹介します

年会費 1口1,000円 個人会員 1口以上、 法人会員 10口以上

会費はお手数ですが、直接お持ち頂くか、下記口座へお振込みください。

郵便振込口座 00130-5-667751 (ゆうちょ銀行からのお振り込み)

ゆうちょ銀行 当座 〇一九店 0667751 (ゆうちょ銀行以外からのお振り込み)

口座名義 もえぎの会後援会

問い合わせ先 もえぎの会後援会事務局(電話:03-5724-7153)

* 恐れ入りますが振り込み手数料はご負担願います。

沙羅の家 清水

沙羅の家 施設長 長谷茂雄

3月14日(金)に四中跡地3施設で合同防災訓練を実施しました。今年は、こぶしえんに設営される福祉避難所の設営を実際に行い、町会の皆さんにも避難者役として参加していただきました。テントの設営やダンボールベッドの組み立てなど、実践的な作業を体験することで、改めて災害時の備えの重要性を感じました。特に印象的だったのは、ダンボールベッドの組み立てです。見た目以上にしっかりとした作りで、避難生活において快適な環境を整える工夫がされていることを実感

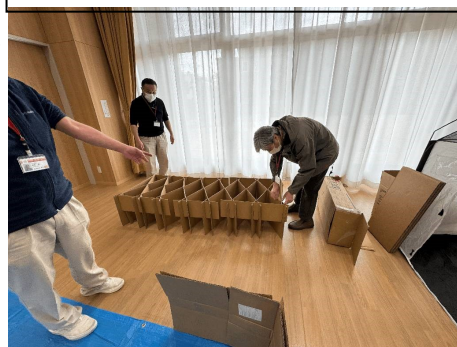
町会と近隣施設と合同訓練



しました。しかし、実際に組み立てるには多少コツが必要で、事前に経験しておくことができて良かったです。

また、こぶしえんのスタッフさんや町会の方々と一緒に訓練を行うことで、地域の連携の大切さを実感しました。災害時には、お互いに助け合うことが不可欠であり、日頃から顔の見える関係を築いておくことが重要だと感じました。

段ボールベッドの組み立てに苦戦



沙羅の家 生活状況報告

沙羅の家 世話人 小林杏

利用者さんの「家」である沙羅の家では心地よい環境づくりを目指しています。自宅での生活と変わらないルーティンや楽しみを尊重しつつ、共同生活の場としてお互いを思い合えるよう見守っています。夕食を家族の様に揃って食べることで相談や雑談・交流のしやすい状況になっています。食事はヨシケイキッチンの食材を取り入れて、みんなで成人病対策に

取り組んでいます。誕生日やクリスマスにはささやかなお祝いの会を催して、スタッフや同じホームの利用者さんからのメッセージのプレゼントをお渡しし、ケーキを召し上げるなどして、楽しみも取り入れながら無理のないダイエットにも取り組んでいます。日常では決まった行動のみをサポートするのではなく、本人に発信してもらえるような声掛け・対応を心がけ「自助自立」「意思決定」出来るように支援しています。



外出もできるようになりました



夕食の団らん

昨年にコロナが第5類になったことで、少しずつ祝日のお出掛けイベントも行えるようになってきました。利用者さんが日々を充実して過ごせるよう、これからも健康づくりも大切にしながら、生活をサポートしてまいります。

編集後記

今年のテーマでもある大転換の準備として、新しくすべきもの、残すべきものの変わることを恐れずに前に進んでいきたいと思ひます。(岡田)

発行: 社会福祉法人もえぎの会

住所: 目黒区目黒本町2-7-3

(法人本部)

電話: 03-5724-7153

e-mail: shiinomisha@abeam.ocn.ne.jp

http://www.moeginokai.jp/

